

試験内容	評価項目	A(20点)	B (15点)	C (10点)	D (1つでもあてはまれば不合格)
定期試験 (60)	妊娠期の生理、異常、 看護が説明できる (D)	妊娠経過から分娩・産褥を予測し予防的観点から日常生活上のセルフケアを促す支援が説明できる。	正常から逸脱した妊娠経過の診断および正常な妊娠経過から標準的な日常生活上のセルフケアを促す支援が説明できる。	正常な妊娠経過から標準的な日常生活上のセルフケアを促す支援が説明できる。	妊娠経過 (妊娠週数・分娩予定日) の診断ができない。
	分娩期の生理、異常、 看護が説明できる (D)	基礎情報・妊娠経過から分娩・産褥を予測し分娩期の看護を説明できる。	正常から逸脱した妊娠経過の診断および基礎情報・妊娠経過から分娩経過を予測し分娩期の看護を説明できる。	正常な分娩経過の診断および分娩期の看護が説明できる。	分娩経過 (分娩機転・分娩所要時間) の診断ができない。
	産褥期・新生児期の生理、異常、 看護が説明できる (D)	分娩経過から産褥期・新生児期を予測し育児機能を促す支援が説明できる。	正常から逸脱した分娩経過の診断および分娩経過から産褥期・新生児期を予測し標準的な育児機能を促す支援が説明できる。	正常な分娩経過から産褥期・新生児期を予測し育児機能を促す支援が説明できる。	産褥期における進行性変化・退行性変化の観察項目が説明できない。新生児期の定義が説明できない。
演習 (40)	母性看護学の対象に対し看護過程を演習レベルで展開できる (D)	紙上事例を用いて、基礎情報・妊娠経過・分娩経過から産褥経過を予測し産褥期・新生児期の看護計画を立案できる。	紙上事例を用いて、妊娠経過・分娩経過から産褥経過を予測し産褥期・新生児期の看護計画を立案できる。	紙上事例を用いて、分娩経過から産褥経過を予測し産褥期・新生児期の看護計画を立案できる。	紙上事例を用いて、産褥期のアセスメントに必要な観察項目 (進行性変化・退行性変化) が説明できない。
	母性看護学領域における看護技術を演習レベルで実践できる (D)	妊娠期・産褥期特有の母性看護技術が技術チェック表をもとに一人で実践できる。	妊娠期・産褥期特有の母性看護技術が技術チェック表をもとに時々助言を受けながら実践できる。	妊娠期・産褥期特有の母性看護技術が技術チェック表をもとに全て助言を受けながら実践できる。	妊娠期・産褥期特有の母性看護技術が技術について全く実践できない。